

# 平成28年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

平成28年10月14日  
和歌山市立岡崎小学校

平成28年4月19日に、6年生児童63人を対象に実施しました全国学力・学習状況調査の本校の結果概要と今後の具体的な取組についてまとめましたのでお知らせいたします。

本年度は、国語・算数の2教科について、昨年度と同様に、「知識」と「活用」の2種類の問題が出題されました。国語A・算数Aでは、身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などについて、国語B・算数Bでは、知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などについて出題されています。

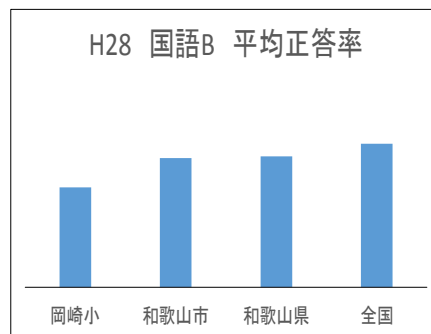
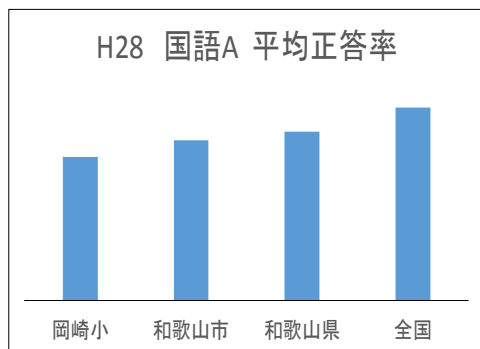
今回の調査結果を受け、学校として子どもたちの学力の定着に向けた取組を一層すすめていきたいと考えています。各家庭におかれましても、以前に配付した「家庭学習の手引き」を参考に、学校と連携した取組に向け、ご理解・ご協力をお願いします。

## 教科調査の結果分析より

### 〈国語科の調査結果に見える本校児童の傾向〉

グラフからもわかるように国語A・Bともに、全国平均、市・県平均に届かない結果となっている。国語Aについては、漢字の書き取りやローマ字で書くなど、既習した内容の定着についての項目に課題がみられる。国語B「読むこと」の領域に関しては、「目的に応じて、質問したいことを整理する」問題はおおむねできている。しかし、読み取った文章から必要な情報を選択して、それを元に自分の考えを伝えることや、グラフや表などから情報を収集してまとめて書くことにも課題がみられる。

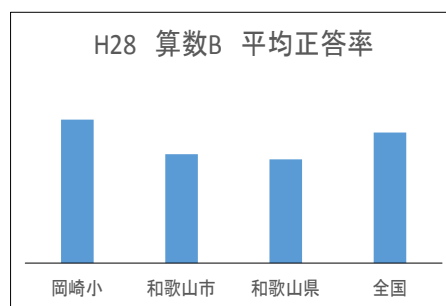
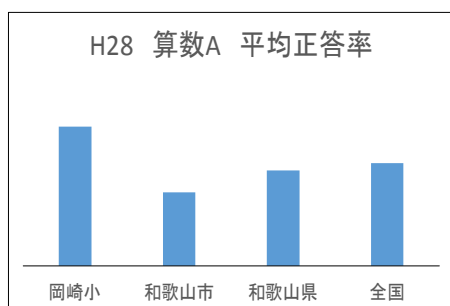
- 課題① 漢字やローマ字など、既習した内容の定着に課題がある。
- 課題② 相手の意見と自分の意見を比較して、考えをまとめることに課題がある。
- 課題③ 多くの情報を問題に合わせて選びとることや、まとまりごとに整理して読み取ることに課題がある。



### 〈算数科の調査結果に見える本校児童の傾向〉

基礎的な内容については、算数 A の結果からも分かるように着実に力がついてきている。また、一昨年度からは全国平均以上の結果となり、月～金曜日に実施している学習タイムの取組の成果が現れていると考えられる。また、その力を活用したり応用したりして答える算数 B について、昨年度は全国平均には届かなかったが、本年度、全国平均を上回る結果となった。基礎の力が向上したことで、算数に対する理解が深まり、意欲的に学習に取り組むことができる児童が増えてきたともいえる。その上で、今回の結果から見える本校の課題を明確にし、さらに向上へと結びつけていけるよう取組を進めていきたい。

- 課題① 問題の答えに対し、見積もりをしてあらかじめ見当をつけたり、想像したりする力に課題がみられる。
- 課題② 問題文が長くなると、題意を十分にとらえられなかったり、計算や立式した内容について自分の考えを表現したりすることに課題がみられる。
- 課題③ 「四則混合算」「割合」「単位量あたり」の単元に、苦手意識があるのか十分定着しているとはいえない。



### 質問紙調査の結果分析より

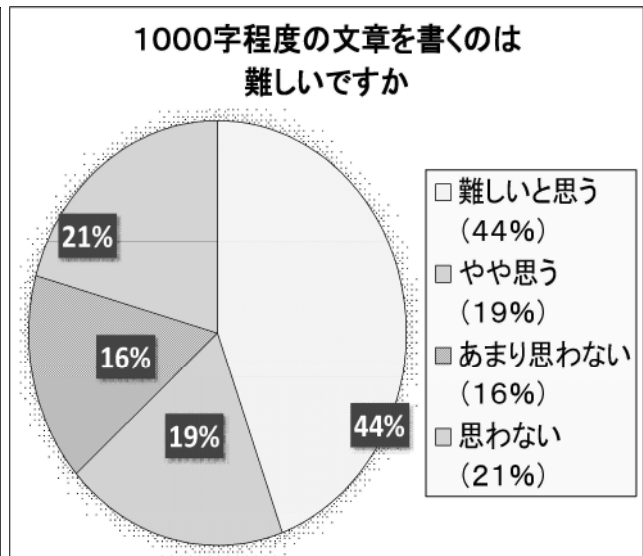
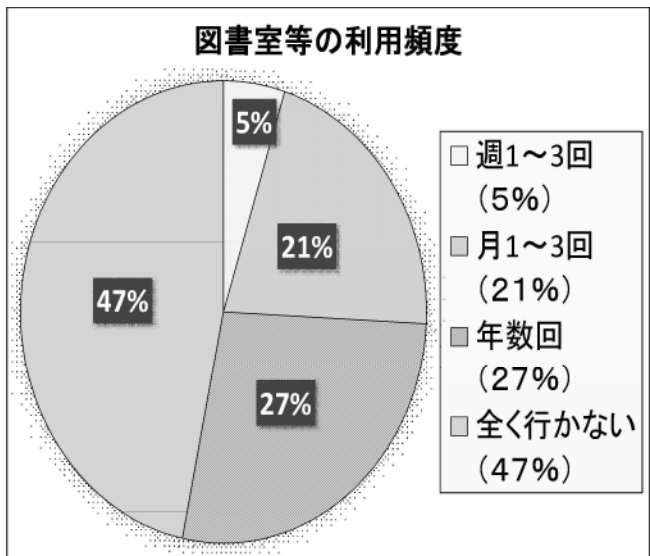
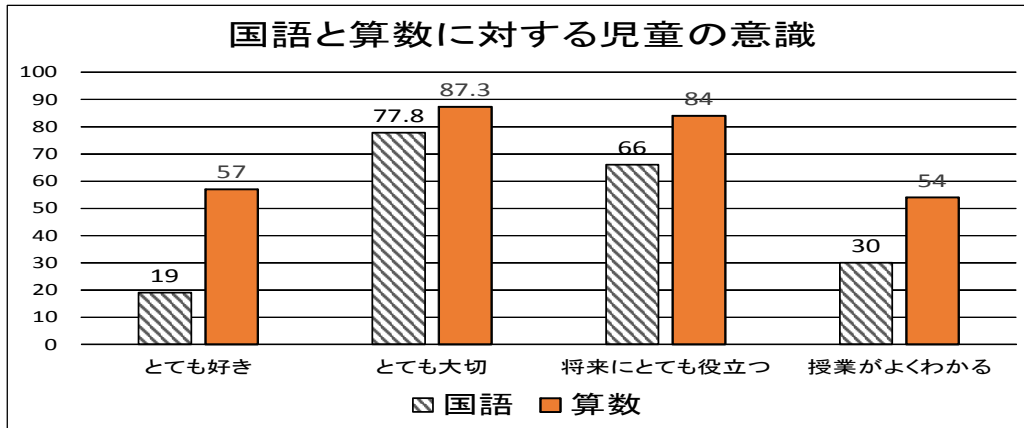
「学校に行くのは楽しい」と答えた児童は92ポイントで、全国平均よりも高いポイントであった。学校で楽しく生活できているということは何よりもうれしい結果といえる。

また、日頃の道徳教育の取組の成果として、「友だちとの約束を守っていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」といった項目で高いポイントとを示している。今後も、人としての心の成長や人間性、自己肯定感(自尊感情)を養って行きたいと考えている。

学習に対しては、「読書は好きですか」「普段の読書量」「図書館に本を借りに行く」といった問いに対しては全国平均よりも低い結果になっている。このようなことから児童の国語と算数に対する意識の差が見受けられ、国語と算数の正答率の差につながっていると考えられる。

- 課題① 話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見を生かしたり、折り合いをつけて話し合い意見をまとめることが苦手である。

- 課題② 文章を書く問題では、解答しなかったり、書くことを途中で諦めたりする児童の割合が多い。
- 課題③ 昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書室や地域の図書館をあまり利用できていない。
- 課題④ 今住んでいる地域の行事にあまり参加できていない。



\* 週4回以上利用する児童は0%

## 基本的な生活習慣について

基本的な生活習慣に関する項目では、「朝食を毎日食べる」で「している」・「どちらかといえばしている」と答えた児童が 90 % 「決まった時間に起きる」で「している」・「どちらかといえばしている」と答えた児童が 93 % であった。さらに「決まった時間に寝る」の項目になると 79 % となり、「早ね 早おき 朝ごはん」が定着していると言いがたい結果となった。

ただ、「平日ゲームをする時間」については、「1 時間未満」と「全くしない」と答えた児童が 50 % を超えており、家庭でのルール作りができてきている結果と思われる。

まずは「健康な体」がすべての基礎になると考えています。それは規則正しい生活から作られていきます。規律ある生活から心も育ち、その結果、学力を含めて子ども達の豊かな成長へとつながっていくと考えています。

今後も基本的な生活習慣の定着に、ご理解・ご協力をお願いします。

## 調査結果を受けて本校が具体的に取り組んでいくこと

- ◎学習タイムでは、算数（計算のスキルを高めるためのドリル学習）に取り組んだ成果がみられたことから、今後も継続して行っていく。また、つまずきの多く見られるところは、ワークシート等を重点的に活用するとともに復習にも力を入れ、さらなる定着を目指す。
- ◎今回の調査で明らかになった課題の中でも、特に弱いと考える「書くこと」について力をつけるために、「紀州っ子学びノート」等を活用し書く機会を増やしていくとともに、授業の中で自分の考えをまとめて書く練習をしたり、様々な教科の学習の中で1日1回は必ず書く活動を取り入れていく。
- ◎子どもがはっきりと「めあて」を持ち、学習後の「振り返り」を大切にしたい授業づくりを行っていく。
- ◎読書の機会をいっそう多く取り入れる。（休憩時間にも、気軽に本を読める環境づくりをするために、県立図書館の一括貸し出しや、高校生読み語りボランティア等を活用した読み聞かせなど、読書の時間を少しでも多く取り入れていく）
- ◎学校だより等で地域の行事を紹介するなどして、子どもたちが行事に参加できるよう呼びかけていく。

## 《学校と家庭が連携した一層の取組に向けて》

- ◎「家庭学習の手引き」を参考に家庭でも学習習慣が身につくよう一層のご協力をお願いします。
- ◎高学年になっても、集中して学習できにくい状況が見受けられたり、学習用具等の忘れ物が目立ったりします。それぞれの学年に応じた家庭学習のポイントやしかた、家庭でのかかわり方等の参考にさせていただき、家庭でしっかりとサポートをお願いします。
- ◎フォローアップのための時間を確保していきます  
つまずいているところを少しでも早く、少しずつでも分かるようにして、学力向上に繋げていくため本年度も、毎週月・火曜日に放課後30分程度の補習の時間を確保しています。家庭からの希望等、必ず、担任と保護者が連絡・相談の上で取り組みたいと考えていますのでよろしくお願いします。
- ◎読書の時間の確保を学校だけでなく家庭でも取っていただくために、「うちどく」の一層の充実を図っていただくことで、学校と連携しながら本好きの子どもを増やしていきましょう。



年度初めに、学校から各家庭に配付している「家庭学習の手引き」を参考に、机に向かう習慣を身につけていきましょう。

なお、「家庭学習の手引き」は、学校ホームページでも紹介していますのでご覧ください。